

秋の太田川を探検しよう

— 複式中学年「太田川探検隊」の実践を通して —

秋 山 哲

1 はじめに

酸性雨やゴミの問題をはじめ、私たちの身の回りの環境に関わるさまざまな問題が、最近マスコミに取り上げられている。何が問題となっているのか知ることを第一歩として、本校では自然とふれあう直接体験の場を設定している。まず、子どもたちが自分の肌で自然とふれあい環境を調べる場を通して、自然のよさやそれを取りまく問題点に気づくことが重要であると考えているからである。自然を感じることで、自然に働きかける行動力となると考えているのである。

本校では低学年より、広島の三角州を作っている身近な太田川をテーマに、環境の学習を進めている。中学年では、太田川をさかのぼり、中流域である山県郡加計町の太田川を活動場所としている。昨年は、加計駅の近くで行ったが、今年は、少し下流の加計町安野付近太田川を活動場所にした。これは、加計駅の近くが、護岸工事が進み親水公園として整備されてきており、目的とする自然の川のようにすが損なわれていること、水の流れが速いことなどの理由による。安野付近を選んだのは、次のような理由による。

- | | |
|--------------------------|--------------|
| ①西宗川との合流点であり、砂地もあること | } 自然に恵まれている。 |
| ②緩やかな流れや瀬があり、危険な個所が少ないこと | |
| ③河原が広く、大きな水たまりがあること | |
| ④中学校が近くトイレの心配がない。道路に近い。 | |

本学級は複式学級で、3年生と4年生のクラスである。4年生は、昨年の夏に加計駅付近の太田川探検隊を経験している。しかし、3年生にとっては初めての太田川中流域となる。また、4年生は社会科において上水道やゴミの問題についても学習している。昨年の探検と季節を変えて実施することや中流域を繰り返し学習することのよさが、学習に反映されるように計画を立てることとした。また、複式学級の特色である異学年集団としてのよさも生かすことができるように考えた。

2 太田川探検隊の実践

(1) 活動計画

①活動計画（全10時間＋常時活動）

太田川探検に出発しよう (2時間) 【オリエンテーション】 ・探検計画を立てよう ・探検の準備をしよう ・活動の見通し	いざ！ 太田川へ (5時間) 【体験活動】 ・魚釣り ・魚採り ・川下り ・川渡り ・石集め ・虫採り ・植物調べ ・表現の見通し	太田川探検隊の探検記録を残そう (3時間) 【活動の表現】 ・表現方法を決める ・報告会の計画	探検報告会を開こう (2時間) 【表現の交流】 ・複低の2年生へ	次の探検を計画しよう 【見通し】 ・源流探検 ・清流遊び ・生き物や水の調査
--	--	---	---	--

活動計画の柱として、太田川を1本の川として子どもたちが考えていくことができるようになるための手だてと、複式学級のよさとして上学年（4年生）が経験者として3年生に伝えている。

くことのできる場を学習に生かすことを考えた。複式低学年に伝える計画を立てたのも、次年度の活動を考えるのことである。

(2) 常時活動

① 中国新聞環境キャンペーン記事

子どもたちが、自分たちが探検した場所を太田川というつながりとして考えることができるようになるのが、中学年の時期である。低学年の時学習した場所を地図の上で確かめられるのがこの時期である。

そこで、子どもたちが太田川の全体像に興味を持つことができないかと考えていたとき見つけたのが、「ありがとう太田川'99中国新聞環境キャンペーン」の記事である。

第1回 これが同じ川の水なの？ 1999. 6. 13

太田川源流の森（吉和村）と原爆ドーム下の太田川を子ども記者が比較した記事

第2回 きれいな水は誰のため 1999. 7. 7

どうしてきれいな水が汚れていくのか探るため、川下りをしながら上流域である戸河内町と加計町についてレポートした記事

第3回 川ってこわいの？やさしいの？ 1999. 8. 17

太田川の歴史的な背景に関わるレポート。上流～中流・加計町香草から安野付近

朝の会で、日直が今日のニュースを調べてきて発表する時間を使って、教師の側からも紹介していった。子ども記者のレポートで読みやすく、分かり易いので、教室に掲示も行った。また、記事にでてきた太田川源流の森は、5年生が野外活動で訪れたところでもあり興味をもつ子ども多かった。

② ペットボトルの利用

4年生の児童は、夏休み前に社会科の学習でゴミ処理場の学習をした。また、3年生の時PTC活動で広島市のリサイクルセンターを見学している。そのようなことから、ペットボトルを再利用することはできないかを考えていた。はじめにおこなったのは、インパチェンスの鉢として利用することであった。また、理科の実験やおもちゃ作りや如雨露の代わりとしても利用することがあり、日頃から集めていた。そんなおり4年生の「科学」（学習研究社）にペットボトルで作ったいかだのことが紹介された。そこで、太田川探検隊の活動で浮かべてみたいという意見がでて、実現に向けて動き出した。

(3) 太田川探検隊の活動

① 川での活動計画

計画をたてる時に現地の写真とビデオを用意した。川遊びを経験したことのある子どもが少なく、十分な活動ができるようにするためである。教師の側から具体的な活動例は示さず、土地のようすと、活動のようすを複式低学年に発表することを説明した。

- ・石集め……川のいろいろな場所で石を集めて比べてみる。
 - ・魚捕り……川が2つあるので、魚の捕れそうなところを探して捕る。
 - ・水鉄砲……昨年楽しかった経験を生かして。
 - ・川下り……ペットボトルでいかだを作って。
 - ・砂で遊ぶ……砂がたくさんあるので、砂遊びがしたい。
- } 子どもたちの
考えた活動

活動時間が午前と午後で3時間あることを伝え、個人でやりたいことや準備するものなどを考えた。予定の変更は現地においても可能なことにしたが、グループで行動することを原則とした。また、この活動は危険をとまなうので、保護者の協力もお願いした。

② いかだ作り

学研の「科学」を参考にしていかに作りをすることにした。以前から集めていた2リットルのペットボトルを4本ずつ針金で結び、4本ずつをタフロープで結び束にした。1本で約2キログラムの浮力を得ることができると考えると、子どもなら20本もあれば浮く計算になる。しかし、バランスをとるためには面積も必要なので、60本を束ね写真のようにベニヤ板に付けて乗りやすいように工夫した。ペットボトルを集めることやいかだを作ることが子どもの手でできるよさがあった。



③ 活動と表現

いかだによる川下りは全員で、石集めや魚採り、水鉄砲をグループで行った。

・石集め、川の水比較グループ

河原の石は集めた場所を、水は猿候川のものと比較していた。発表は、実物と紙芝居を使って行った。右の図は、紙芝居である。石の特徴をまとめ、集めた場所を地図で示しながら発表した。色や形だけでなく固さにも目を向け、石と石をこすりつけて傷で固さを調べた。



・水鉄砲グループ

4年生は、昨年川遊びで楽しかった経験がこの活動につながっている。しかし、今回は水鉄砲を自作でチャレンジしている。水鉄砲作りが中心であったが、砂を使った遊びも考えていた。

・魚採り・水生昆虫グループ

3年生はこのグループの希望が多かった。生き物の捕れる場所を調べてみようという計画を立て、網や釣り竿を自作していた。発表では生き物の種類やとれる場所の共通点をまとめていた。釣りはうまくいかなかったが、再度挑戦してみたいという振り返りをしていた。とれる場所は、2年生には伝えないことにしたのもこのグループである。



3 成果と課題

雑誌の記事を持ってきていかに作りができたことは大きな成果であると考え。使用後のいかだは、ベンチとして教室で活躍している。ペットボトルの再利用という点、もっと作りたいという次年度につながる活動になった点においてよかったといえる。

新聞記事の紹介は、子どもたちが自分たちの探検した場所を太田川という一本の川の部分としてとらえる上で有効であったといえる。活動後、サツキマス遡上の記事を子どもが持ってきたこと、5年生の太田川源流の森での活動の様子に興味をもったことでも効果があったと考える。

場所によって生き物や水や石などの違いを比較したグループが多かった点も評価できる。

活動の報告会を複式低学年に行うことを事前に告げ、活動のまとめ方も考えながら計画を立てた。おすすめのポイントは話す、細かなところは自分で見つけてもらおうということになった。このことも自分で活動を定めることを大事にしてきた成果と考える。

しかし、活動場所を昨年と変更することになった点は、4年生にとって大きなマイナスであった。初めての場所で季節を比較できにくかったと考えられる。

【参考文献】

「科学」7月号、学習研究社、1999

中国新聞社'99環境キャンペーンありがとう太田川①～③、中国新聞社、1999